

2014 年度社会心理学コロキウム

新・社会心理学コロキウム

第1回 文化・社会・遺伝の関わりを考える（1）

日時：2015年2月13日（金）15:00～18:00

場所：法文2号館2階 教員談話室

| | |
|----|---|
| 講師 | 山形伸二先生 （九州大学基幹教育院・准教授） |
| 演題 | 人間行動遺伝学の方法と社会科学的展開 |
| 概要 | 人間行動遺伝学は、双生児や養子などを対象としたデータを得ることで、通常は交絡している遺伝と環境の影響を分離して評価することができる。本発表においては、まず(1) 最も単純な手法であり、研究の蓄積の多い単変量遺伝分析(遺伝率の推定)、(2) より発展的な手法であり、複数の特性(e.g.気質と問題行動)の間の相関関係(共分散)を遺伝由来、環境由来に分解する多変量遺伝分析、(3) 特定の環境条件下において遺伝の影響の強さが異なることを明らかにする遺伝環境交互作用分析、のそれぞれについて、基礎となる考え方と方法について説明する。そのうえで、発表者の携わってきた研究を中心に、これらの手法を用いてこれまでに得られた代表的知見について紹介し(e.g.人間行動遺伝学の三法則)、さらに人間行動遺伝学の方法を社会科学領域に適用することの必要性和有効性、および実際の研究例について紹介する。 |

| | |
|----|--|
| 講師 | 針原素子先生 （東京女子大学現代教養学部・講師） |
| 演題 | 一般的他者への態度と社会的ネットワークの日韓米比較研究 |
| 概要 | 日本人の一般的信頼は、アメリカ人と比べて低く（e.g., 山岸, 1998）、韓国人と比べても低い（e.g., Sato, 2010）ことが指摘されている。本報告では、日本人は本当に他者一般に対して否定的なのか、それはなぜなのかについて検討するために、発表者がこれまで行ってきた研究について紹介する。日韓米において行った社会調査、フィールドワークの結果、日本人はアメリカ人、韓国人と比べて、一般的信頼が低く、見知らぬ他者と相互作用しない傾向が確認された。また、アメリカ人、韓国人と比べて、日本人のネットワークサイズは小さく、境界密度（家族、友人集団、職場集団などの各領域間のつながり）が低いこと、そのようなネットワーク構造が日本人の一般的他者への否定的態度と関連していることが分かった。何が日本人の他者との積極的な関わりを妨げているのか、その心理的要因について検討したいいくつかのデータと共に議論したい。 |

旧・社会心理学コロキウム

日時：2014 年 4 月 4 日（金）17:00～18:30

場所：法文 2 号館第 3 会議室

講師：Marianne LaFrance（イエール大学心理学部）

演題：Gender and Default Facial Expressions

概要：Facial expressions do not merely reflect emotional states but also reflect gender norms and expectations. Recent studies in our lab using implicit measures have found that observers expect to see smiles on women's faces and not on men's faces. They also expect to see anger on men's faces and not on women's faces. Angry high status women are not expected at all.